

## テレワーク中の PC をメンテするなら 「起動していない PC」にもパッチを適用したい！

### 「ネット経由で電源オン」「起動したらパッチ配信」を実現する JBSの新サービスとは？

#### 目次

インターネット越しでも PCのパッチ配信などを 管理できるBigFix ……………	1
「起動していない端末」にも パッチを適用し、 セキュリティーを確実にしたい ………	2
「驚くほど簡単だった」 自宅のPCを、Azure上のサーバーから 電源ON→パッチも配信 ……………	2
AutopilotやIntuneとの組み合わせも検討中 「ハイスペックPCを選んだら、たまたま インテル® vPro® プラットフォームも 搭載されていた」事例が増えている？ …	4

昨今増えるテレワークで、PCのメンテナンスに悩む企業が多いようです。

メンテナンスが不十分だと、動作に問題が出る場合があるのはもちろん、セキュリティーの問題も懸念されます。

そこで、クラウドインテグレーターの本日本ビジネスシステムズ株式会社 (JBS) が提案するのが、強力なパッチ配信サービスである「BigFix」 (HCL Software社製品) とインテル® vPro® プラットフォームの連携です。BigFixは強力なパッチ配信機能を持ちますが、PCの電源が入っていないければ機能しません。そこで、「インテル® vPro® プラットフォームで電源を投入→BigFixでパッチを配信する」ことで、インテル® vPro® プラットフォームを活用した強力な管理・セキュリティー管理体制を構築できる、というわけです。



日本ビジネスシステムズ株式会社では「インテル® vPro® プラットフォーム」と「BigFix」を連携させたサービスの開発を進めています

同社では、テレワーク対応のパッチ運用支援サービス「Managed Endpoint (ME)」において、こうした環境を構築し、これから顧客へ展開しようとしています。

MEサービスでインテル® vPro® プラットフォームに対応する意義や、検証した結果などについて、JBSの金澤友右氏 (クラウドマネージドサービス本部 エンドポイントサービスセンター エンドポイントバーチャルサービスグループ マネージャー) と安住崇氏 (クラウドマネージドサービス本部 エンドポイントサービスセンター エンドポイントバーチャルサービスグループ) に話を聞きました。

#### インターネット越しでも PCのパッチ配信などを管理できるBigFix

MEは、HCL Softwareの製品「BigFix」を使ってJBSが独自に提供しているマネージドサービスです。OSのセキュリティー更新プログラムやFeature Updateを配信する機能を中心に、インベントリー管理 (IT資産管理) として機器一覧を可視化したり、業務で必要になるアプリケーションや設定変更を配信したりといったことをしています。

BigFixは、管理サーバーが、社内のPCのインベントリー情報の取得や、HCL Softwareからのポリシー情報の定期取得、ライセンス管理などの役割を担います。各拠点では既存PCをリレーとして設定することにより、拠点ごとの管理サーバーを設置する必要はありません。

なお、「OSのセキュリティー更新」という点では、マイクロソフトの提供するWSUS (Windows Server Update Services) で集中管理することもできますが、WSUSはクライアントがアクティブディレクトリ (AD) に参加している必要があります。その機能もパッチ配布に特化されています。



インテル® vPro® プラットフォームはネットワーク越しに電源ON/OFFできる制御機能を基盤としたインテルのPC管理機能。単に電源をON/OFFできるだけでなく、サポートやセキュリティーを高めることができます。

ここに縛られない点がBigFixの強みです。また、ほかの製品に対するBigFixの強みの1つとして、サーバーからのプッシュ型ではなく、プル型であり、各クライアントが起動したタイミングでリレーに確認して、それぞれパッチを適用するようになっている点もあります。「これによって、パッチの適用率が違います。弊社の30~40社ほどの実績で、パッチ適用率は95%以上となっています」（金澤氏）

このBigFixを使ったMEサービスでは、主にWindows PCを対象に、大小さまざまな規模をサポートします。「500~2000台以下がボリュームゾーンで、台数が多いお客様では5000や8000台などの例もあります」と金澤氏は説明していました。



日本ビジネスシステムズ株式会社 クラウドマネージドサービス本部  
エンドポイントサービスセンター エンドポイントパーチャルサービス  
グループ マネージャー 金澤友右氏

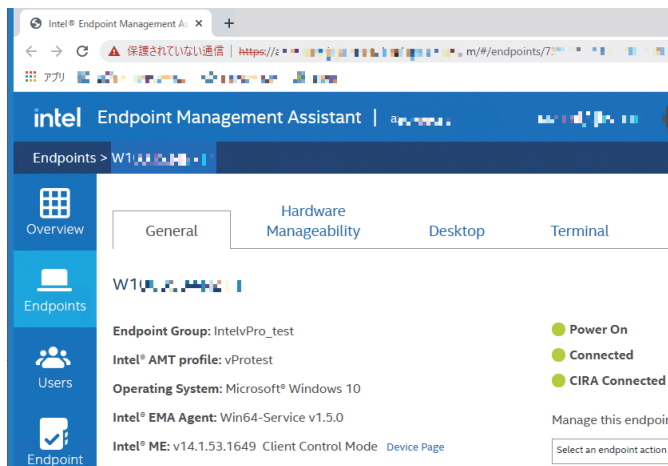
## 「起動していない端末」にもパッチを適用し、 セキュリティを確実にしたい

前述のとおり、MEサービスでは「95%以上」という高いパッチ適用率を実現しています。しかし問題は、「端末が起動していないとパッチが適用できない」ことです。

「それは当たり前」という話ではありますが、パッチが適用されないと、セキュリティの不安が残りますし、半年に一度のアップデートがあたらないとOSバージョンが食い違ってしまいます。未適用PCのリストを出して「パッチをあててください」と呼びかけるにも手間がかかりますし、「残り5%」となっても、全体の台数があればその数も多くなります。

「お客様との報告会で、“端末をアップデートしてくれない人がいる”という話を聞いていました。また、どのPCかが分かっても、PCのある部門が変わったり、人が変わったりして、追跡が大変なこともあります。そこをもう一歩踏みこめれば、お客様の情報システム部門が助かると思っていました」（金澤氏）

BigFixはインテル® vPro® プラットフォーム搭載PCの管理ツールである「インテル® エンドポイント・マネジメント・アシスタント（インテル® EMA）」との連携に対応しています。



インテル® EMA はウェブブラウザを介して操作します。管理対象 PC の電源オン/オフやリセット、リモート・デスクトップ操作、ファイル配信などができます。グループ単位の操作もできます。こうした管理機能で「セキュリティの穴」を塞ぐことができるのがインテル® EMA とインテル® vPro® プラットフォームの特徴です

インテル® EMAはインテルが無償配布しているサーバーソフトウェアで、インターネット越しでの「電源オフからの起動」「BIOS設定」「OSに依存しないリモート・デスクトップ」といった機能を持ち、インテル® vPro® プラットフォームを搭載しないPCも含め、複数のPCをグループ単位で管理可能。LAN内だけでなく、インターネット経由で利用できるのはBigFixと同様です。

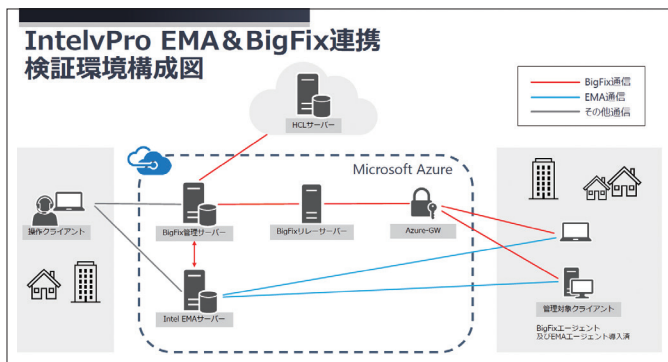
このインテル® EMAの機能をBigFixから利用するプラグイン「インテル® EMA-BigFixライフサイクル・インテグレーション」が提供開始されはじまりました。

「HCLと連絡をとっている中で、インテル® EMAに対応したという話を6月頃にいただきました。ちょうど、インテルとのコラボレーションの担当が私に変わったこともあり、検証を開始しました」（金澤氏）

## 「驚くほど簡単だった」 自宅のPCを、Azure上のサーバーから 電源ON→パッチも配信

インテル® EMAの検証は以下の構成で行いました。

検証のためのEMAサーバーとBigFix管理サーバーはパブリッククラウドであるMicrosoft Azure上に用意、管理するクライアントPCはローカルに配置しました。



検証の構成図

手順としては、まず Azure 上に EMA サーバーを立て、ローカルに置いたクライアント PC がどのように管理できるかを検証しました。「Azure 用のテンプレートがあったので簡単に構築できました。また、クライアント PC の設定もエージェントをインストールするだけで、同じく簡単でした」と安住氏は言います。

電源オン・オフやスリープ、リモート・デスクトップ、ファイル転送など、ひとつおりの機能を確認したという安住氏ですが、新鮮な驚きがあったのは、やはり「エージェントを入れるだけでファイアウォールを超えて電源をオンできる」点だそうです。もちろん、挙動に関する知識はありましたが、実際の動作を目の当たりにすると、あまりの「あけなき」に驚いてしまったといいます。「シャットダウンも速いし、電源のオン・オフもできる。リモート・デスクトップもシームレスにできます。リモートワークなので、自宅からインターネット経由で検証用端末を操作してみて、すごいなと思いました」（安住氏）。



今回の連携について検証を行った日本ビジネスシステムズ株式会社クラウドマネージドサービス本部 エンドポイントサービスセンター エンドポイントパッチャーグループ 安住崇氏

こうして EMA サーバーの検証を終えた後、BigFix 管理サーバーを立てて、連携を検証しました。

検証環境で、BigFix サーバーから操作することで、EMA サーバーを直接操作することなく、連携して必要な機能を使用を確認できました。

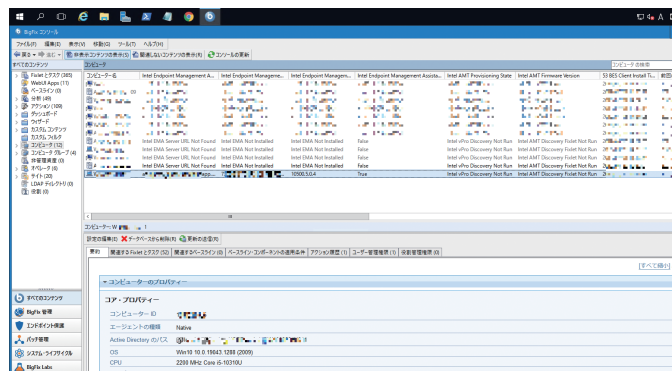
BigFix は PC の起動時、「パッチの状況を確認し、必要なものがあればダウンロード、適宜インストールする」という動作を行いますが、インテル® vPro® プラットフォームによる遠隔起動と組み合わせることで「遠隔起動（インテル® vPro® プラットフォーム）→パッチ適用（BigFix）」という見事な連携プレーが成立します。

### BigFix と EMA は連携済み、アクション1つでエージェントのインストールも

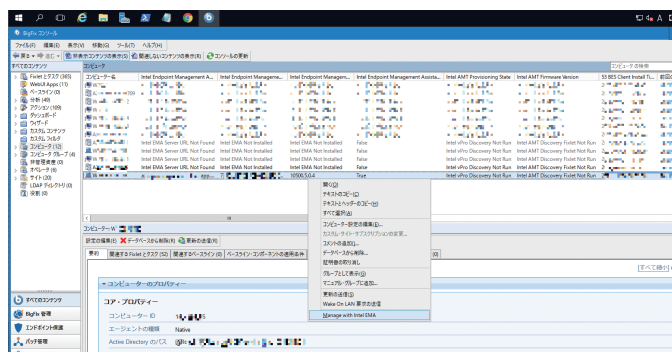
安住氏は実際に BigFix からインテル® EMA の機能を利用するところをデモしてくれました。

インテル® EMA のプラグインを組み込んだ BigFix のコンソールで、管理対象端末のリストを表示すると、そこで各端末に EMA のエージェントがインストールされているのかも分かります。

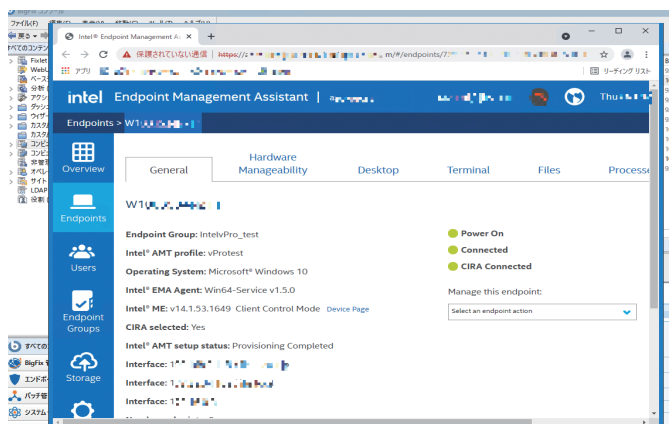
ここで端末を選び、右クリックから BigFix 内で EMA の機能にアクセスできます。ここから電源オンやリモートアクセスなどを実行できます。EMA のエージェントが入っていない端末については、BigFix のコンソールから端末を選んで、BigFix の機能で EMA のエージェントをインストールすることもできます。BigFix に EMA の機能がシームレスに組み込まれた形です。



EMA と連携中の BigFix コンソール。インテル® vPro® プラットフォームの設定状況が表示されています



右クリックメニューから EMA の管理画面を簡単に呼び出せます



呼び出された EMA の管理画面。ここから電源オン/オフやリモート・デスクトップなど、さまざまな制御が行えます

「インテル® EMA との連携機能については、6月に HCL Software から対応したことを教わってすぐに検証を開始し、通常業務の合間を見て8月頃までに検証作業を行いました」（安住氏）

### 「LAN 内限定の Wake-on-LAN ではなく、インテル® vPro® プラットフォームで」

ちなみに、これまでも、BigFix から Wake-on-LAN を使って PC を起動する構成をしたケースもあったそうです。ただし、Wake-on-LAN では、LAN 内の同じネットワークセグメント内のコンピューターが起動していて、そこから PC を起動するマジックパケットを送る必要があります。



安住氏が使っていたノートブック PC もインテル® vPro® プラットフォーム搭載モデルだったため、検証はすぐに始められたといいます

それに対し、BigFixとインテル® EMAであれば、リモートワーク端末などインターネット越しでPCを起動できますし、シャットダウンもできます。さらに、Wake-on-LANは有線LANに限られますが、インテル® EMAであれば無線LANでも使えることも安住氏は付け加えていました。

## AutopilotやIntuneとの組み合わせも検討中 「ハイスペックPCを選んだら、 たまたまインテル® vPro® プラットフォームも 搭載されていた」事例が増えている?

JBSでは現在、サービス提供に向けて検証している段階です。

BigFixのインテル® EMA連携でどんなことができるかについて、金澤氏は「大規模なお客様ですと、電源が入っていないPCをインターネット越しで電源を入れてパッチを適用できるのが大きいですね。また、ハードウェアベースでリモート・デスクトップ接続ができるので、なにかしら故障が起きたPCに接続して症状を切り分けするのに活用できそうです」と語っていました。

さらに今後はインテル®EMAを、BigFix以外の管理ツールとも組み合わせたい、と金澤氏は語っています。

例えば、WindowsデバイスをセットアップするWindows Autopilot、デバイスやアプリケーションなどを管理するMicrosoft Intuneをインテル®EMAと組み合わせることも考えられるといいます。

「AutopilotとEMAの利用でクライアントの最初のパッチ適用やFeature Update、ハードのある程度の整備を行います。さらに、最初から必要になるアプリケーションをIntuneで配信し、インテル®vPro® プラットフォームで補助してやると、“きっちり使えるPC”が最初からお出しできるというわけです」

また、インテル® vPro® プラットフォームの活用で、大規模展開している店舗端末の管理も省力化できると金澤氏は見通しを語っていました。「営業していない夜間にインテル® vPro® プラットフォームでパッチをあててセキュリティーフィックスするといったことができるので、セキュリティー向上、管理の省力化の両面で効果が大きいとみています」（金澤氏）

そのためにもインテル® vPro® プラットフォームを搭載したPCが必要になりますが、興味深かったのは「企業が導入しているPCは思ったよりインテル® vPro® プラットフォームの搭載率が高い」という金澤氏の発言です。

「“エンドユーザーが端末をアップデートしてくれない”とおっしゃっていたお客様では、調べてみると、ほとんどのPCがインテル® vPro® プラットフォームを搭載していました。テレビ会議などのツールを使うことになって、CPUやメモリーを重視してPCを選んだところ、“そのPCがたまたまインテル® vPro® プラットフォーム搭載機だった”ということが増えていたようです」（金澤氏）

企業によっては、実は「インテル® vPro® プラットフォーム搭載PC」が意外と導入されている場合もあるということです。こうした、「実は普及しているインテル® vPro® プラットフォーム」を生かすことで、BigFixで情報システム部門の労力を削減しつつ高いセキュリティーを実現できるでしょう。

「インテル® vPro® プラットフォームにはインテル® ハードウェア・シールドが備わっていて、PCを箱から出した時点で守られています。さらに、Windows 11のセキュリティー機能に対応するなど、インテル® vPro® プラットフォームのセキュリティーは進化しています。こうしたセキュリティー機能を生かすためにも、OSが最新になっている必要がありますし、OSを最新にするためにもインテル® vPro® プラットフォームが有効です」（金澤氏）



インテル® テクノロジーの機能と利点はシステム構成によって異なり、対応するハードウェアやソフトウェア、またはサービスの有効化が必要となる場合があります。実際の性能はシステム構成によって異なります。すべての条件下で絶対的なセキュリティーを提供できるコンピューター・システム、製品、コンポーネントはありません。一部のインテル® Core™ プロセッサー・ファミリーで利用できる内蔵セキュリティー機能を使用するには、対応するハードウェアやソフトウェア、サービスの有効化、インターネットへの接続が必要となる場合があります。結果は、システム構成によって異なります。詳細については、各 PC メーカーまたは販売店にお問い合わせいただくか、<https://www.intel.co.jp/vPro> を参照してください。

Intel、インテル、Intel ロゴ、その他のインテルの名称やロゴは、Intel Corporation またはその子会社の商標です。

その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

INTERNET Watch (2022 年 1 月 25 日) に掲載されたコンテンツから抜粋し、再構成したものです。

インテル株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1

<https://www.intel.co.jp/>

©2022 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

2022 年 2 月

350190-001JA  
JPN/2202/PDF/TMRB/CCG/NM